

経営体育成支援事業目標達成状況報告書(5年度目)

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度	事業実施主体
北海道	カミフラノチヨウ 上富良野町	カミフラノ 上富良野	平成25年度	平成27年度	上富良野町

I 地区の成果目標

(単位:経営体、%)

項 目	目標 達成状況(上段:計画、下段:実績)					5年度目 達成状況 (%)
	1年度目	2年度目	目標年度 (3年度目)	4年度目	5年度目	
① 経営面積の拡大	3 0	4 4	4 4			達成済
② 耕作放棄地の解消						
③ 農業の6次産業化	3 3	4 4	4 4			達成済
④ 農産物の高付加価値化	6 5	7 7	7 4	7 4	7 4	57.1%
⑤ 農業経営の複合化						
⑥ 経営コストの縮減						
⑦ 輸出						
⑧ 農業経営の法人化						
⑨ 雇用	1 0	1 1	1 1			達成済

II 経営体の成果目標

No	対象経営体名	項 目	現状	目標 達成状況(上段:計画、下段:実績)					5年度目 達成状況 (%)	実績を確認 した資料名 等
				1年度目	2年度目	目標年度 (3年度目)	4年度目	5年度目		
1	A	経営面積の拡大(ha)	19.4(3戸)	19.7(3戸) 19.4(3戸)	19.7(3戸) 30.9(3戸)	19.7(3戸) 31.1(3戸)			達成済	賃貸及び売買 契約書
		農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:円/俵)	14,518円 /俵	14,518円/俵 14,839円/俵	16,268円/俵 16,895円/俵	16,268円/俵 15,030円/俵	16,268円/俵 15,042円/俵	16,268円/俵 15,418円/俵	51.4%	うち年末最終精 算明細書
		農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:ha)	ほしのゆめ 191a	ほしのゆめ 191a ゆめびりか 1.0ha	ゆめびりか 0.5ha ゆめびりか 1.0ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 1.0ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 9.3ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 8.5ha	850.0%	経営安定対策C SVデータ
2	B	農業の6次産業化 (南瓜の契約栽培:a)	0	0 25(1カ所)	25(1カ所) 31(1カ所)				達成済	契約南瓜出荷 申込書
		農産物の高付加価値化 (メロンの規格、秀比率増加:%)	40	60 26	60 74	60 71			達成済	農産物実績 表
		経営面積の拡大(ha)	21.3(1戸)	21.3(1戸) 21.3(1戸)	21.8(1戸) 21.8(1戸)	21.8(1戸) 21.9(1戸)			達成済	賃貸及び売買 契約書
3	C	高付加価値化 (新品種クリスター導入による増収:t/10a)	0	6.5(糖度17度) 7(糖度16.5度)	6.5(糖度17度) 6.5(糖度17.2度)	6.5(糖度17度) 7.0(糖度16.2度)			達成済	甜菜糖算明 細書
		農業の6次産業化 (米の直接販売:俵)	0	40(1カ所) 50(1カ所)	50(1カ所) 50(1カ所)	50(1カ所) 53(1カ所)			達成済	米販説明書
		農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:円/俵)	13,890円 /俵	16,268円/俵 16,853円/俵	16,268円/俵 16,895円/俵	16,268円/俵 15,030円/俵	16,268円/俵 15,042円/俵	16,268円/俵 15,418円/俵	64.2%	うち年末最終精 算明細書
4	D	農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:ha)	ななつぼし	ゆめびりか 0.8ha ゆめびりか 1.0ha	ゆめびりか 0.9ha ゆめびりか 1.7ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 1.0ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 2.4ha	ゆめびりか 1ha ゆめびりか 1.6ha	160.0%	経営安定対策C SVデータ
5	E	農業の6次産業化 (大豆の直接販売:俵)	0	2.5(1カ所) 2.5(1カ所)	2.5(1カ所) 2.5(1カ所)	2.5(1カ所) 3.0(1カ所)			達成済	売買契約書
		農作物の高付加価値化 (麦の1等比率の増加:%)	65.0	80.0 94.2	80.0 91.1	80.0 100.0			達成済	麦出荷明細書
6	F	農業の6次産業化 (生食スイートコーン契約栽培:ha)	0	2(1カ所) 2(1カ所)	2(1カ所) 2(1カ所)	2(1カ所) 2(1カ所)			達成済	農産物生産請 負契約書
		農産物の高付加価値化 (ばれいしょ1級比率増加:%)	8.0	50.0 40.3	50.0 71.9	50.0 59.5			達成済	加工物計算精 算明細書
7	G	経営面積の拡大(ha)	40.4	40.7 40.4	40.7 44.4	40.7 44.4			達成済	賃貸及び売買 契約書
		雇用 (常勤雇用の増加:人)	0	1 0	1 1	1 1			達成済	労働契約書
8	H	経営面積の拡大(ha)	34.2	34.5 34.2	34.5 35.8	34.5 36.0			達成済	賃貸及び売買 契約書
		農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:円/俵)	14,518円 /俵	16,268円/俵 16,853円/俵	16,268円/俵 16,895円/俵	16,268円/俵 15,030円/俵	16,268円/俵 15,042円/俵	16,268円/俵 15,418円/俵	51.4%	うち年末最終精 算明細書
		農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収:ha)	ほしのゆめ	ゆめびりか 2ha ゆめびりか 2.2ha	ゆめびりか 2ha ゆめびりか 2.5ha	ゆめびりか 2ha ゆめびりか 2.7ha	ゆめびりか 2ha ゆめびりか 3.0ha	ゆめびりか 2ha ゆめびりか 3.2ha	160.0%	経営安定対策C SVデータ

III 達成状況に関する事業実施主体の所見(評価)

5年度目は、地区成果目標「農産物の高付加価値化(新品種の導入による増収)」の1項目が目標を達成することができなかった。
・「農産物の高付加価値化(新品種の導入による増収)」については、6月の低温多雨日照不足により穂数・莖数がやや少なく草丈も低かった。また生育も停滞し葉先枯れも見られた。8月はやや気温も低く、生育の遅れがあった。今後については、政策を効率的に推進するため、未達成者に対するフォローアップ引き続き実施するとともに、農協・農業改良普及センター等関係機関・団体等と連携を図り、育苗管理の徹底や深水管理とそれを可能とする畦畔整備、適正施肥などを行うことで天候に左右されにくい圃場づくりをすること及び栽培技術の向上等を指導することで、平成30年度に目標を達成することとする。

目標未達成理由等の報告書

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度	事業実施主体
北海道	上富良野町	上富良野地区	平成25年度	平成27年度	上富良野町

Ⅰ 経営体ごとの成果目標の未達成理由等

No.	対象経営体名	成果目標	目標未達成となった主な理由等	目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等
1	A	農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収：円／俵)	6月の低温や日照不足により分けつした稲が登熟しなかったため、収穫が多いが青米が多く品質の安定が保てなく安価な取引となった。また出穂期間の高温により早期異常出穂により穂揃いが悪化した圃場があり目標の達成とならなかった。	農協、農業改良普及センター等関係機関・団体等が連携を図り、土壌診断・土壌分析などを行うことで天候に左右されにくい圃場づくりをすること及び栽培技術の向上等を指導することで、平成29年度に達成予定。
4	D	農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収：円／俵)	6月の低温や日照不足により分けつした稲が登熟しなかったため、収穫が多いが青米が多く品質の安定が保てなく安価な取引となった。また出穂期間の高温により早期異常出穂により穂揃いが悪化した圃場があり目標の達成とならなかった。	農協、農業改良普及センター等関係機関・団体等が連携を図り、土壌診断・土壌分析などを行うことで天候に左右されにくい圃場づくりをすること及び栽培技術の向上等を指導することで、平成29年度に達成予定。
8	H	農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収：円／俵)	6月の低温や日照不足により分けつした稲が登熟しなかったため、収穫が多いが青米が多く品質の安定が保てなく安価な取引となった。また出穂期間の高温により早期異常出穂により穂揃いが悪化した圃場があり目標の達成とならなかった。	農協、農業改良普及センター等関係機関・団体等が連携を図り、土壌診断・土壌分析などを行うことで天候に左右されにくい圃場づくりをすること及び栽培技術の向上等を指導することで、平成29年度に達成予定。

Ⅱ 地区の成果目標(必須目標)ごとの未達成理由等

成果目標項目 (必須目標)	未達成理由の総括	目標達成に向けた改善措置 及び目標達成見込時期等
農産物の高付加価値化 (新品種の導入による増収：円／俵)	3経営体中0経営体が目標達成(達成率0%)。 6月の低温や日照不足により分けつした稲が増加しなかった。また出穂期間の高温により早期異常出穂により穂揃いが悪化した圃場があり目標の達成とならなかった。	農協、農業改良普及センター等関係機関・団体等と連携を図り、土壌分析や栽培技術の向上等の経営体に対する個別具体的な指導等を実施することで平成29年度に目標を達成予定。

Ⅲ 地域への影響等と構造政策を進めるための今後の取組方向

1 担い手への農地利用集積について 農地利用集積等の現状をみると農業者の高齢化などという状態で、上富良野地区全体として担い手の不足が課題である。 本地区の「人・農地プラン」においては、農地利用集積の対象者については今後の地域の中心となる経営体とされており、今後は農地中間管理機構等を活用し中心となる経営体や中心となる経営体と連携する経営体への集積を促進するとともに、集落営農の育成等を強化する。 2 必要となる中心経営体の育成について 本地区の「人・農地プラン」においては、認定農業者に認定され、受け手として規模を拡大していく農業者や法人、5年以内に農業経営を継承する後継者を基本に中心となる経営体として位置づけている。中心経営体の育成・確保状況については、上富良野地区全体の高齢化の問題があるとともに、新規に就農する経営体数より離農する経営体数が上回っている状態にあることから、中心経営体の確保もまだ十分と言える状態ではない。このことから、毎年更新している人・農地プランの検討等が重要であり、地域ごとの人・農地プランの検討会等の際に、今後の地域農業のあり方を検討し、中心経営体の確保・育成を行っていくこととする。 3 人・農地プランの作成・見直し等について 本地区の「人・農地プラン」は平成24年8月に策定され、直近では平成28年3月に経営体の位置づけについて中心的経営体から中心的経営体と連携する農業者へと変更するや担い手との連名等の見直しを行った。今後も町全体の現状や本事業の未達成の状況を踏まえて、認定農業者が減少傾向にある中で農地利用集積や担い手のあり方を十分勘案し、平成28年4月以降毎年度、人・農地プランの見直しを実施する。 4 未達成者の対応等その他 農協、農業改良普及センター等関係機関・団体等が連携を図り、未達成者に対するフォローアップを引き続き実施するとともに、人・農地プランの中心的経営体の育成・確保に対する支援のあり方について、地区の関係者、J A、農業改良普及センター等の関係者と対応を検討する。
--

〔記入要領〕

- Ⅰの「目標未達成となった主な理由等」欄については、経営体の成果目標の項目ごとに主な理由を記入する。
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄については、これまでの達成状況等の推移を踏まえ、具体的な改善措置の内容、目標達成の見込とその時期について記入する。
- Ⅱの「未達成理由の総括」欄については、必須目標となる地区の成果目標ごとに、未達成理由を総括的に整理する。
また、「目標達成に向けた改善措置及び目標達成見込時期等」欄についても、地区の成果目標ごとに具体的な改善措置の内容、目標達成の見込とその時期について総括的に記入する。
- Ⅲについては、Ⅱで整理した地区の成果目標未達成理由等を考慮の上で、①地区内の担い手への農地利用集積状況や出し手・受け手の現状等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、②地域が必要とする担い手と地域内での役割分担の状況等を踏まえた課題と今後の具体的な対応策、③人・農地プランと現状との乖離状況等を踏まえた具体的な対応策等、④未達成者への今後の対応その他課題と対策等について記入する。